

あれこれ通信

TeL / Fax 0493-62-7997
http://space.tom-shibuya.com
e-mail 713@tom-shibuya.com

渋谷とみ子の議会報告No.72

子どもは、私たちの輝く未来！

子育て支援・形が整いつつあります。

おかあさんと赤ちゃんや小さいこどもが毎日、どこかに集まってお友達と出会うことができる場が整ってきました。役場町民ホール、ふれあい交流センター、北部ふれあい交流センターのどこかで、月曜日から金曜日まで、開かれています。図書館での読みかせ、ボランティアで開催されているいきいきふれあいプラザ「なごみ」のおばあちゃんち、社会福祉協議会でおもちゃ図書館も開催されていて、出会いの場が増えています。



町立幼稚園は3年保育に

町立幼稚園は、2年保育で園児は87人、3才保育がないので町外の私立幼稚園に通園する子どもが多いのです。町立幼稚園は、元鎌形小学校に引越し、園庭芝生化しました。ピンクの園舎にブルーの日赤社屋の講堂、緑の芝生の美しい建物です。自然環境に恵まれています。3年保育に変更し、多くのこどもに通園してほしいのです。

子どもの貧困

日本全体では、今では6人に1人のこどもが貧困状態といわれています。嵐山町で、この数字を当てはめてみると18才以下のこども2776人のうち462人が貧困状態です。物質的に豊かに見えるので貧困生活だろうかと思いが、長時間労働でも所得が低く苦しい状況が続き、大人が子どもの世話を満足に時間をとることが出来ないこともあります。そして、虐待がおこる場合があります。子育て家庭がさまざまな状況からSOSを出せる政策が必要です。

子ども医療費の窓口払い廃止は必要です！

嵐山町は、子ども医療費の窓口払い廃止をせず、窓口廃止で生じる新たな負担の部分を小中学生の教材費の一部を支援する(小学生10000円、中学生20000円)方法を取り、H24年は1884万円を予算化し、子ども医療費無料化には3944万円を予算化しました。

子ども医療費窓口払い廃止によって新たに負担する経費3050万円、それを小中学校教材や保育園の保育料町負担額を支援する政策です。

もっと子育てサポートを現金がないと子どもを医療機関に連れて行くことはできません。貧困をサポートするとき、医療費

の窓口払い廃止は必要です。又、小中学校の教材費支援も必要です。国で子ども医療費負担を0割にすればよいのです。貧困の連鎖を断ち切る政策を働きかけます。

命のSOSが出せる社会に

全国のH23年の交通事故死数は4612人でH22年より251人少なくなりました。酔っ払い運転で、子どもを殺された親たちの運動が実ってきた危険運転致死罪の効果です。

一方、H23年の全国自殺者数は30651人でした。自殺者はH10年より3万人を越え、死亡原因の第5位になっています。人が生きることを断念する社会は、辛い社会です。交通事故死者は運動で減少しました。2006年自殺対策基本法制定。大人もこどももSOSが出せ、生き辛さを和らげ、人に手を差し伸べる社会をつくりましょう。